

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果と分析

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 対象 小学校6年生、中学校3年生

3 実施日 2021年5月27日（木）

4 調査内容

- 教科に関する調査「国語、算数・数学」
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ◆児童・生徒に対する調査
 - ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
 - ◆学校に対する調査
 - ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 学力調査結果

(1) 教科別平均正答率（全国より上回っているもの、下回っているもの）

【小学校】

		国語	算数
平均 正答率	町田市	64.0	71.0
	全国	64.7	70.2
	東京都	68.0	74.0
割合 ※1	町田市	99	101
	東京都	105	105

○国語は、全国との比較では0.7ポイント、東京都との比較では4ポイント下回っている。
○算数は、全国を0.8ポイント上回っているが、東京都より3ポイント下回っている。

【中学校】

		国語	数学
平均 正答率	町田市	66.0	59.0
	全国	64.6	57.2
	東京都	67.0	60.0
割合 ※1	町田市	102	103
	東京都	104	105

○国語は、全国との比較では1.4ポイント上回り、東京都より1ポイント下回っている。
○数学は、全国を1.8ポイント上回っているが、東京都より1ポイント下回っている。

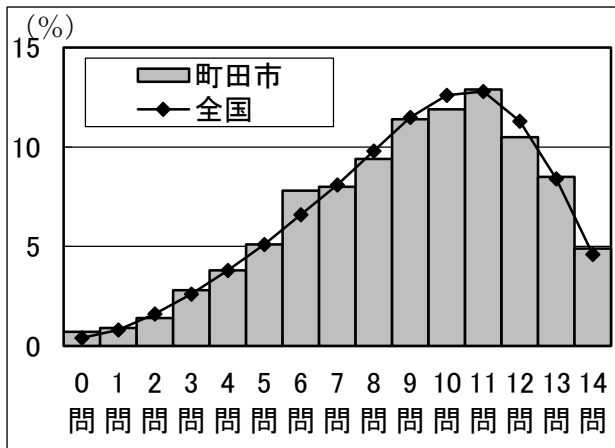
※1 全国を100とした時の割合

※2 「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計。「話すこと」は参考実施のため、集計から除外。

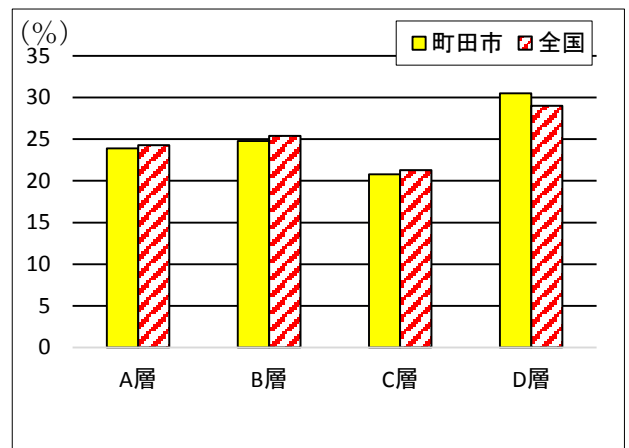
(2) 小学校

①国語

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数, 縦軸：割合)



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの (3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示)

評価の観点・学習指導要領の内容、領域等		問題数	平均正答率 (%)		
			町田市	全国	東京都
		14	64	64.7	68
思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	3	80.5	77.8	81.8
	書くこと	2	58.5	60.7	62.7
	読むこと	3	50.1	47.2	53.5
知識・技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	6	65.2	68.3	69.9

【問題ごとの平均正答率】

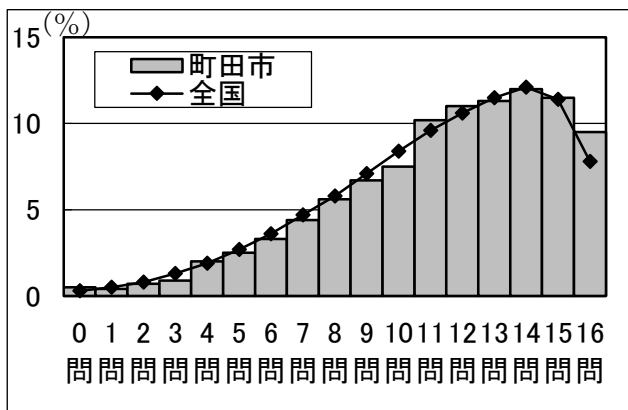
問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1一	目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える	80.4	77.5	80.9
1二	資料を用いた目的を理解する	77.9	74.9	80
1三	目的や意図に応じ、資料を使って話す	83.3	81	84.6
2一	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する	82.5	77.6	83.4
2二	思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う	89.4	87.5	90.2
2三	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける	34.5	34.4	40
2四	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する	33.3	29.7	37.2
3一	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える	67.9	64.8	70.1
3二	目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する	49.1	56.6	55.3
3三(1)ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	76.9	78.3	79.4
3三(1)ウ		49.2	54.4	57
3三(1)エ		74.6	79	77.5
3三(2)イ	文の中における主語と述語との関係を捉える	60.7	67	68.2
3三(2)オ	文の中における修飾と被修飾との関係を捉える	40.3	43.6	47.2

【分析 (○) と授業改善のポイント (●)】

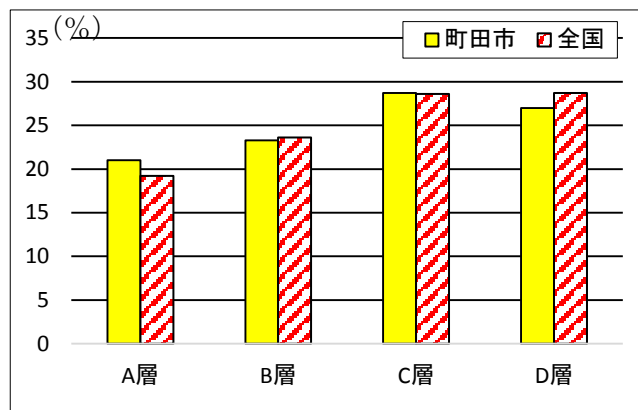
- 四分位の正答数内訳では、D層の割合が全国よりも多い。
- 観点別の平均正答率では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が全国より3ポイント以上低い。
- 問題別では、目的や意図に応じて、理由を明確にししながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う、文の中における主語と述語との関係を捉える、文の中における修飾と被修飾との関係を捉えるが全国より3ポイント以上低い。
- 文を書く時に、主語や述語、修飾語を意識して作文すること、理由を明確にししながら、自分の考えをまとめることの指導を充実する必要がある。

②算数

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの（3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示）

評価の観点	問題数	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
	16	71	70.2	74
知識・技能	9	75.3	74.1	78
思考・判断・表現	7	66	65.1	68.3

【問題ごとの平均正答率】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1(1)	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	62.4	62.5	64.7
1(2)	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる	88.1	86.7	90.1
1(3)	速さを求める除法の式と商の意味を理解している	56.4	55.8	62.6
1(4)	条件に合う時刻を求めることができる	88.5	89.2	90.6
1(5)	速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる	84.6	85.1	86.5
2(1)	三角形の面積の求め方について理解している	55.9	55.1	62
2(2)	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる	76.6	72.5	77.8
2(3)	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる	49	46	51.3
3(1)	棒グラフから、数量を読み取ることができる	96.5	95.8	96.5
3(2)	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる	92.4	90.7	92.2
3(3)	データを二次元の表に分類整理することができる	72.2	67.5	73.8
3(4)	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる	53.5	52	57.4
3(5)	集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる	77.2	73.9	77.9
4(1)	示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる	82.5	83	85.4
4(2)	商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる	54.9	55.5	60.2
4(3)	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる	49	51.5	51.3

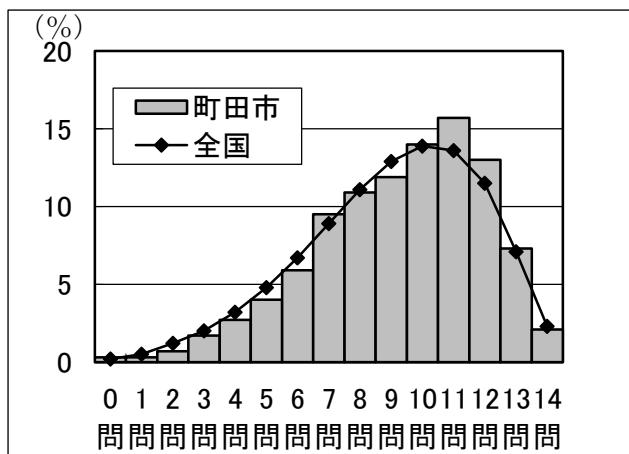
【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

- 四分位の正答数内訳では、D層の割合が全国よりも少ない。
- 観点別では、どの問題も全国の平均より高く、問題別では、データを二次元の表に分類整理する項目は、全国より3ポイント以上高い。図形の面積の求め方についての理解、場面から数量の関係を捉え、立式して計算する項目については、都の平均から約5から6ポイント低い。
- 二つの数量の関わりや変わり方をつかみ、立式すること、式を正確に計算することの指導を充実する必要がある。

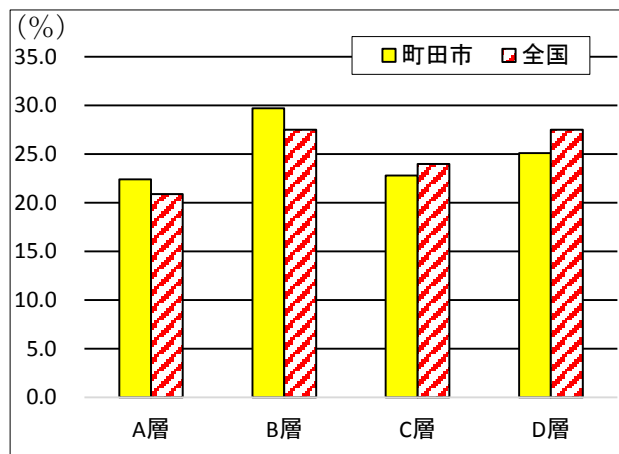
(3) 中学校

①国語

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数, 縦軸：割合)



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの (3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示)

評価の観点	問題数	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
	14	66	64.6	67
話す・聞く能力	3	81.6	79.8	81.9
書く能力	3	59.2	57.1	59.7
読む能力	4	50.6	48.5	52.5
言語についての知識・理解・技能	4	75.4	75.1	76.1

【問題ごとの平均正答率】

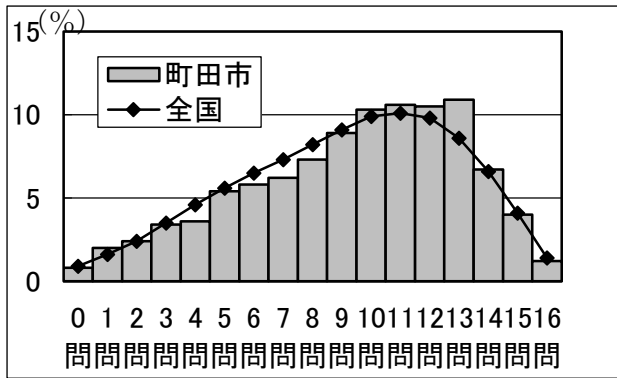
問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1一	話合いの話題や方向を捉える	91	89.7	91.5
1二	質問の意図を捉える	93	92.5	93.3
1三	話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	60.7	57.1	60.9
2一	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	28.8	24.8	27.9
2二	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える	77.2	74.5	77.4
3一	文脈の中における語句の意味を理解する	47	43.7	49.1
3二	場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する	61.3	58.7	62.2
3三	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	73.5	71	74.1
3四	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ	20.5	20.5	24.7
4一①	文脈に即して漢字を正しく読む	97.5	97.5	97.1
4一②		91	88.8	90.2
4二	事象や行為などを表す多様な語句について理解する	77.3	74	78
4三	相手や場に応じて敬語を適切に使う	36	40.3	39.1
4四	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	71.6	71.9	73.9

【分析 (○) と授業改善のポイント (●)】

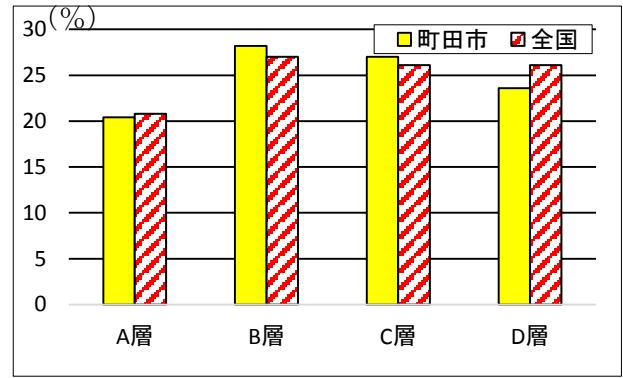
- 四分位の正答数内訳では、A層、B層の割合が全国よりも多い。
- 観点別では、全項目で全国よりも平均正答率が高い。
- 問題別では、話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えること、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くこと、語句の理解については、全国よりも3ポイント以上高い。
- 問題別では、相手や場に応じて敬語を適切に使う項目が、全国よりも4ポイント以上低い。
- 普段の生活の中で相手や場に合わせた話し方を意識させ、適切な敬語を使う指導が必要である。

②数学

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの（3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示）

評価の観点	問題数	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
	16	59	57.2	60
数学的な見方や考え方	7	43	41.1	44.6
数学的な技能	3	76.9	77.7	79.6
数量や図形などについての知識・理解	6	67.4	65.6	68.1

【問題ごとの平均正答率】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1	整式の加法と減法の計算ができる	78.8	77.1	80.4
2	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることことができる	71.7	71.3	74.4
3	扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している	71.4	68.1	72.6
4	関数の意味を理解している	51.5	48	50.2
5	与えられたデータから中央値を求めることことができる	80.2	84.5	84.1
6(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることことができる	84.6	83.9	85.6
6(2)	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することことができる	65.2	61.8	67.4
6(3)	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することことができる	32.9	30.3	34.9
7(1)	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることことができる	93.4	93.5	93.9
7(2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することことができる	28.1	27.7	30.3
8(1)	ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることことができる	84.5	83	85.1
8(2)	相対度数の必要性和意味を理解している	36.2	36.8	38.5
8(3)	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することことができる	8.5	11.1	11.2
9(1)	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることこの理由を説明することことができる	49.2	44.3	50
9(2)	錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している	67.7	64.3	68.5
9(3)	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することことができる	32.6	28.8	33

【分析 (○) と授業改善のポイント (●)】

- 四分位の正答数内訳では、B層、C層の割合が全国よりも高い。
- 観点別では、数学的な技能についての知識・理解の平均正答率が全国よりも低い。
- 観点別の数量や図形などについての知識・理解の内容では、図形の問題に対する理解は高い。
- 問題別では、与えられたデータから中央値を求めることこの平均正答率が全国よりも4ポイント低い。
- 必要な情報を正確に取り出し、取り出した情報を正確に分析し、数学的に説明する力を付ける指導を工夫する。

6 質問紙調査結果

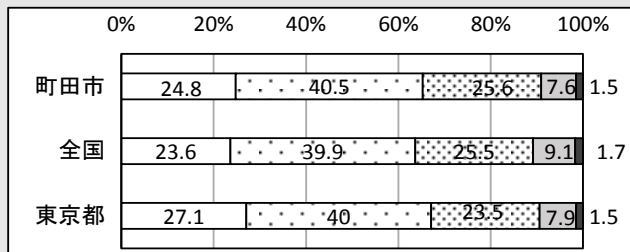
(1) 児童生徒質問紙

【授業をデザインする8つの取組（価値ある対話の共有）に関する項目】

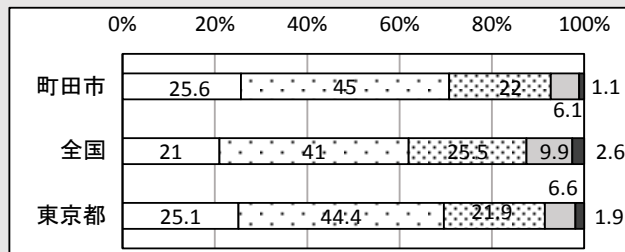
①小学校5年生（中学校1、2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなど工夫して発表していましたか。

※左から児童・生徒の回答内容「発表していた」「どちらかといえば発表していた」「どちらかといえば発表していなかった」「発表していなかった」「考えを発表する機会はなかった」の順に並んでいる。

【小学校】



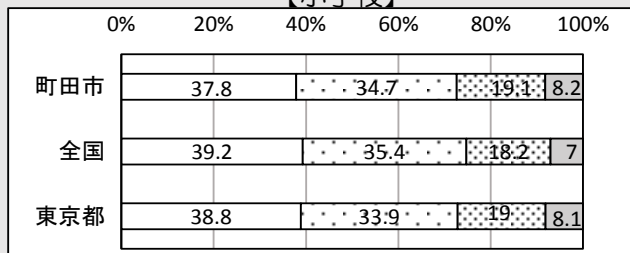
【中学校】



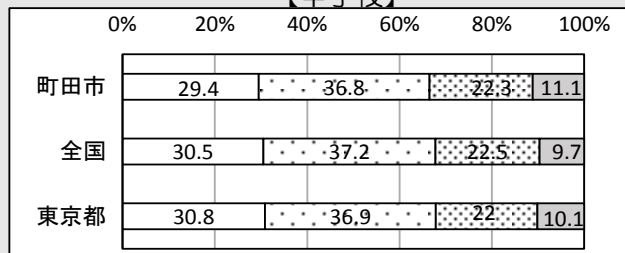
【えいごのまちだ事業に関する項目】

②5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができましたか。

【小学校】



【中学校】



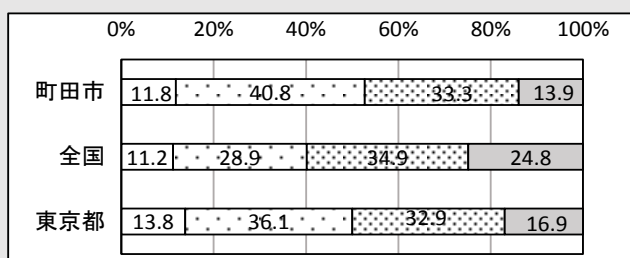
③1、2年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができましたか。

【ICT事業に関する項目】

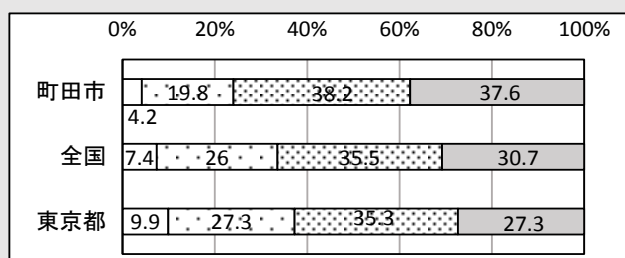
④5年生まで（小学校）に受けた授業（中学校は1、2年生）で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。

※左から児童・生徒の回答内容「ほぼ毎日」「週1回以上」「月1回以上」「月1回未満」の順に並んでいる。

【小学校】



【中学校】



【分析（○）と今後について（●）】

○①の「自分の考えを発表する機会」に関する設問では、肯定的な回答をしている児童生徒の割合は、小学校で65.3%、中学校で70.6%であり、全国を上回っている。

○②③の「外国語の考えや気持ちを伝え合うこと」に関する設問では、肯定的な回答が全国よりも下回っている。

○④の「ICTの使用頻度」に関する設問では、小学校は全国を上回っているが中学校は下回っている。

●各項目を関連付け、授業をデザインする8つの取組に基づき、ICTを活用した意見交換等を含めた「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善の推進を図っていく。

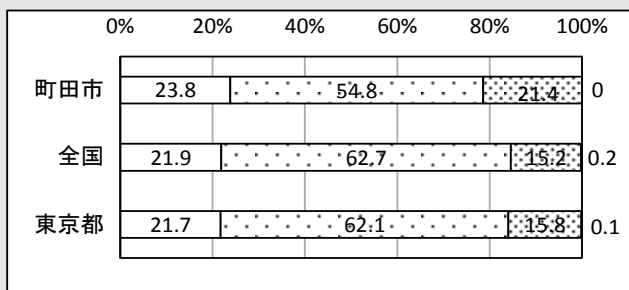
(2) 学校質問紙

【コロナ禍における研修の在り方に関する項目】

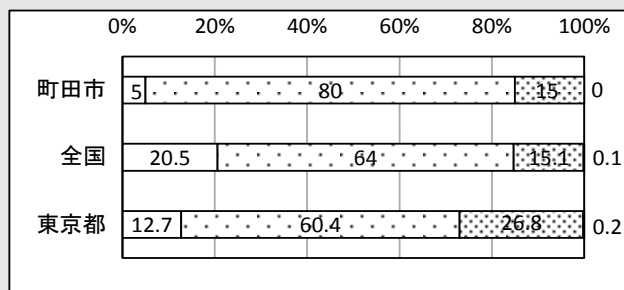
①校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている。

※左から学校の回答内容 「よくしている」「どちらかといえばしている」「あまりしていない」「全くしていない」の順に並んでいる。

【小学校】



【中学校】



○「よくしている」「わりとしている」と回答した学校数

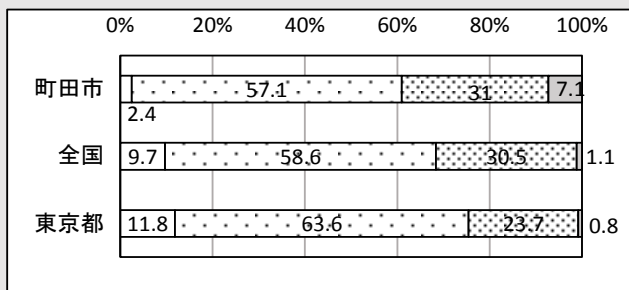
「よくしている」 小学校10校 中学校 1校
 「わりとしている」 小学校23校 中学校16校

【授業をデザインする8つの取組（価値ある対話の共有）に関する項目】

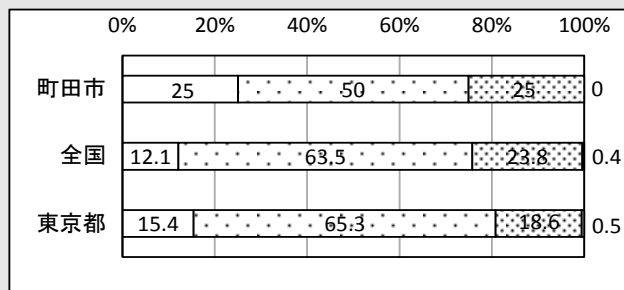
②調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

※左から学校の回答内容 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の順に並んでいる。

【小学校】



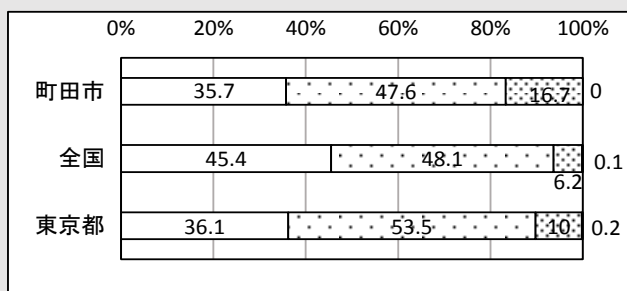
【中学校】



【えいごのまちだ事業に関する項目】

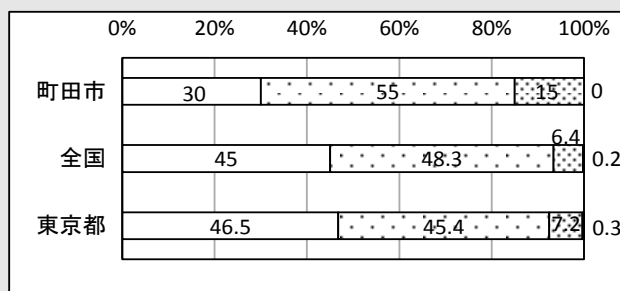
③英語の指導に当たって、前年度までに、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合う（対話的な）活動に取り組みましたか

【小学校】



④英語の指導に当たって、前年度までに、英語で話したり書いたりして、生徒自身が互いの考えや気持ちを伝え合う（対話的な）活動に取り組みましたか

【中学校】

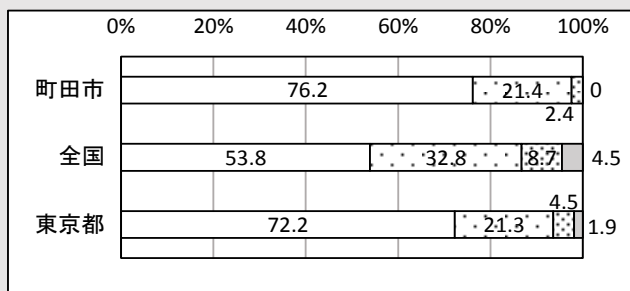


【ICT事業に関する項目】

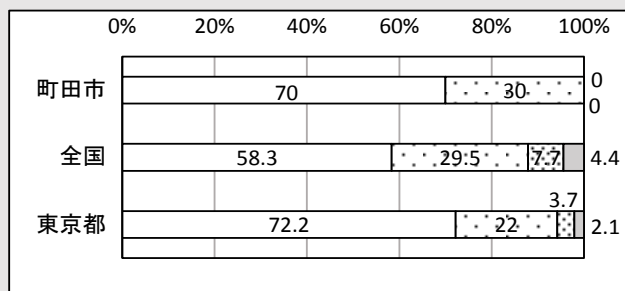
⑤前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を1クラス当たり、どの程度行いましたか

※左から学校の回答内容「ほぼ毎日」「週1回以上」「月1回以上」「月1回未満」の順に並んでいる。

【小学校】



【中学校】



【分析（○）と今後について（●）】

- ①の「研修や研究会への参加」に関する設問では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、研修及び研究会の開催が縮小されていることも関連していると考えられるが、「よくしている」と回答した学校が半数を超えていない。
- ②の「自分の考えを発表する機会」に関する設問では、肯定的な回答をしている学校の割合は、小学校で59.5%、中学校で75%であり、全国を下回っている。
- ③④の「外国語の考えや気持ちを伝え合うこと」に関する設問では、肯定的な回答をしている学校の割合が全国よりも下回っている。
- ⑤の「ICTの使用頻度」に関する設問では、小中学校ともに肯定的な回答をしている学校の割合が全国を上回っている。
- ①について、町田市教育委員会としてオンラインを活用した研修をより一層充実させていくとともに、各学校の研究成果をMNEチャンネルを活用して市内へ広める取組を推進する。また、学校全体の取組として研修や研究会の成果を校内研修等で積極的に反映させていく必要がある。
- ②から④について、児童生徒、学校ともに肯定的な回答が全国を下回っていることから、授業をデザインする8つの取組を基に言語活動を中心とした「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を図る必要がある。
- ⑤について、児童生徒の回答と比較して肯定的な割合が高いことから、教師が課題提示を中心に活用していることが考えられる。今後は、どの教科においても一人一台端末を活用した授業改善の推進を図る必要がある。

7 調査結果分析に基づく町田市教育委員会の取組

- (1) 学力向上推進委員会にて、小中学校の各教科でICTを活用した授業実践を行い、デジタル版実践事例集を作成して、各学校で授業改善の参考資料として活用するように周知する。
- (2) えいごのまちだ推進委員会にて、授業をデザインする8つの取組を取り入れた小中学校の英語の授業実践を行い、デジタル版実践事例集を作成して、より良い英語授業の参考資料として広めていく。また、MEPSやALTとの合同研修会等を実施し、言語活動を中心とした授業改善に向けて連携を深めていく。
- (3) ICTの活用については、市独自のICT活用状況調査を教員及び児童生徒を対象に実施・分析した結果を踏まえ、児童生徒の学びを深めるツールとして、教員が授業の中で積極的にICTを活用することができるように、マスターラーニング（スリートスマート作成サイト）の掲載内容及びICT活用研修等の研修内容のより一層の充実を図る。
- (4) 調査結果を踏まえ、学力向上推進プラン（第4次）を策定する。また、町田市スタンダード授業改善シートを活用して、各学校が授業改善推進プランを作成するとともに、組織的な授業改善のPDCAサイクル化を図るよう教務主任会や研究主任会、若手教員育成研修等で周知していく。